

## 会員のみなさんへ

### ① 子どもたちの「土曜日の学び」について(シリーズ2)

理事長 中川 忠宣

会報誌19号で紹介したコミュニティ・スクールの実施に加えて、近年、文部科学省が推進する施策に、子ども達が地域の方々に学ぶ「土曜日(祝祭日・長期休業も視野に入れて)の教育活動」があります。これは、学校教育として土曜日に実施する活動(土曜授業・土曜課外授業)と、学校以外の地域の団体・組織、行政等が自主的に行う活動(土曜学習)に分かれます。土曜日に学校が授業を行うことができるための法律改正や「学校応援団」の募集等を行いながら、学習困難な児童生徒への学習指導、休日を活用した地域での学びや体験を推進するものです。土曜日は地域の方々もお休みの方が多くなり、子どもに関われる活動を組みやすくなります。このことによって、子どもの願いや地域の方の願いを融合しながら「体験知」を育てることを目指しています。文部科学省では、こうした「土曜日の教育活動」を行っている企業や団体・組織、それをお手伝いするコーディネーターの方々を表彰する取組を平成27年度から始めることとしています。私たちのNP0法人大分県「協育」アドバイザーネットワークの出番が来たような気がします。NP0法人としては、指導者の育成や会員の活動紹介等が中心になりますが、会員の方々が地域で行っている様々な活動が表彰対象になるわけです。表彰されなくても、今、国がスポットを当てて推進しようとしている取組ですので、行政等との連携を取りながら「地域の子どものため」に楽しみながら活動していきたいですね。\*表彰についての資料は「協育」ネットのHPに掲載しています。

### ② 子どもを支える(1)～スクールカウンセラーとして

理事 梅野 悦子

スクールカウンセラーの私は、「どんな顔をしてこの手紙を読むんだろう」と想像を巡らしながら生徒に手紙を書く。季節やその子に合わせた便箋の絵柄を考えながら。入学以来まったく登校していない男子中学生の母親や祖父母から得た情報を基に、その子とつながるためにはどうすればよいかと考えた末に、ちょっと相談室をのぞいてみないかとの誘いの手紙を送った。以前にもある時から登校せず家にじっとしている女子中学生に手紙を出したところ登校してきたのだが、今回は会ったこともない生徒に手紙を書くには内容に頭と心を駆使して手紙を書くということになった。ところが手紙を受け取ると登校してきて、先生方も保護者も私でさえも驚いた。結局今まで4名の生徒に手紙を出したが、毎日とはいかなくても全員登校し始め、よく話し笑顔さえも見せるようになってきている。なぜだろう。自分を見ていてくれる、自分のことを思って自分に手紙を書いてくれた、自分をわかってくれるのではないかという喜びと期待感が、家から出る勇気を起こさせたのではとと思っている。誰でも自分を理解し応援してくれる存在は嬉しいものである。その一つの方法が、丁寧な手紙(保護者の弁によると達筆できれいな手紙とのこと)だったのではないだろうか。子ども達の成育歴を見ると共通することが多い。保護者は生活や仕事に精一杯で子どもの心や成長・衣食に目を配る余裕さえなかったこと、生活習慣や社会性を身につける体験が少なかったこと、人との結びつきや対応が上手く育てられなかったこと等々に思い当たることが多い。登校し始めたら、学校生活への段階的な対応は、先生方の仕事である。もちろん子ども達の本音や本人に自分の心の内を見つめさせる手助けをし、先生方と情報を共有するのはカウンセラーとしての役割として共に子ども達に向き合うのだが、学校生活に適応できなくても社会に適応し、生きていける自立を目指すには、子どもを理解し支えてくれる団体や地域民間の力が必要となる。「学校に行かなくても学ぶことはできる」と東大の「異才発掘プロジェクト」が9月に発足したことをテレビや新聞で知った。プロジェクトとまでいなくても、子どもが「自分の考え方や新しい生き方を探っていく」システムが欲しいと切に思っている。今、子どもたちを支える人脈を手繰り寄せているところである。

## 事務局よりお知らせ

## 温泉コンシェルジュ養成公開講座開催！！

平成27年度文部科学省委託事業「おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト」の事務局を担当する協育ネットは、「温泉コンシェルジュ」の周知と社会人の学び直しのきっかけづくりとして公開講座を開催いたします。詳細は、HPをご参照ください。

日時：平成28年1月24日(日)、2月7日(日)、2月13日(土) 9時から12時

会場：別府市役所1階レセプションホール(別府市上野口町1番15号)

募集人数：50名 料金：無料

申込方法：メールまたは電話にて申込(担当:赤木、安達)

onsen@bm.mizobe.ac.jp / 0977-76-5508 (不在時0977-67-7974内線204)

主催：別府溝部学園短期大学

共催：おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト、別府市

### ※温泉コンシェルジュ強化推進セミナー開催

日時:平成28年2月10日 14時から16時

どなたでも参加できます。

会場等は追ってお知らせします。

### ※デザイン交流会開催

平成28年2月27日・28日梅園の里で

開催いたします。

## 広報部よりお知らせ

会員のみなさん今年最後の会報誌です。江藤さんの発達障害公開講座は大盛況でした。これは逆に皆さんの周りに障害者を支えながら生活してる人の多さを物語っています。当事者だけで対応するには限界があります、もっと周りの理解や支えが急務だと思いました。さて、来年も広報部ではどんどん会員さんの元へ出かけて行きます。

2016年1月は古庄由紀さん(4期生)の元へ取材に行く予定です、お楽しみに！



身近な情報をお寄せください。

協育ネット広報部  
担当 上原

# 会員さんの活動紹介

江藤 裕子さん (4期生) NPO法人 共に生きる 代表理事



今回の会員さんの活動紹介は 江藤優子さん(4期生)です。江藤さんはNPO法人 共に生きる代表理事、「共に生きる」スタッフは、いろんなキャリア・体験を持ち、ひとり一人役で電話相談、講演、NPO活動の支援、高齢者のためのパソコン相談や趣味講座を通して皆様のお役に立てる活動をしています。詳しい活動はこちらのホームページからご覧ください。 <http://tomoniikiru.com/>



今回ホルトホール大分で 知ってほしい！ 青少年からの発達生涯 公開講座を開催するそのので取材と勉強に行ってきました。



(満員の会場)

ホルトホールおおいだの120名定員の会場に次々と受講希望の方が来られ、開講前に満室となりました。これほど多くの方が関心を寄せていることに驚きながらも、入室できない方々にお詫びして後日資料を送付すると伝えて見送るのが本当に申し訳なかったです。会場の中は、それぞれに悩みを抱え発達障害と向き合っている家族や支援センターの方、医師、行政職員などが真剣に学び一緒に考えている姿でいっぱいでした。

## ① 発達生涯講演会

北九州市立大学の楠先生より発達障害についての症例を本人から寄せられた事例を具体的に紹介しながら解説していただき「この子自身が何に対して困っているのか？を周りの大人が理解することで、子どもに安心感を持たせてあげると自発的にヘルプしてほしいことを引き出せるようになる。」など、関わりを諦めるのではなく、次のアクションを起こすことの意義を教えてくださいました。

## ② 体験発表 トーク・トーク

主催者の江藤 裕子代表からの体験談は、息子さんの「療育」でした。参加者一人一人がうなずきながら聞いている姿が多く見られたことは、大変印象的でした。きっと今悩まれている方へ「前に踏み出す勇気」をもらったのではないのでしょうか。開講後2時間半を過ぎても席を立つ人もなく、質疑応答の時間では、質問だけでなく体験談や経験からの情報提供もあり、本当に充実した時間を共有することができました。江藤さんの「共に生きる」のパワフルな活動は、こんなにも多くの人々を繋ぎ支えていることに感動しました。参加させていただき感謝し、次回開催を心よりご期待いたします。(安達 江口)



(楠 凡之先生)



(熱心に質問する参加者)

## 『協育』アドバイザー養成講座【上級編】実践研修

日時 12月3～4日  
参加者 11名

熊本県阿蘇市に行ってきました。

北田 佳子 (4期生)

### 【1日目】阿蘇市立 内牧小学校



(研修風景)

今年の実践研修は阿蘇方面です。大分大学から10名がバスに乗り込み、視察先の阿蘇市立内牧小学校へと向かいました。その後、現地で1名合流し、総勢11名になりました。内牧小学校は、平成27年3月に学校運営協議会が立ち上がり、本年度コミュニティ・スクールがスタートしたばかりです。学校・家庭・地域が一体となって、内牧小コミュニティ・スクールのねらいである「人間づくり、学力づくり、社会性づくり、心と体づくり、地域づくり」を目指しています。また、昨年度より本格実施になった土曜授業は、「公開型土曜授業」「連携型土曜授業」「体験型土曜授業」の3つに分かれています。地区により分けられたコミュニティは「登山」「清掃活動」「伝承芸能」などの年間計画をした取り組みをしています。平成24年の7月12日に豪雨災害を受けた地域ですが、コミュニティ活動が学校と地域を結びつけて、災害に負けない地域づくりにもなっていると思いました。私たちが訪問した時に、学習ボランティアの方がプリントの丸つけをしていました。生徒の理解進度に合わせて印刷されたプリントは、ボランティアの2名が解答している間に、教師がTT(ティーム・ティーチング)で机間巡視して、子どもたちの質問に答えていました。個別指導にも近いこの学習形態で、成績は上がっているそうです。



### 【2日目】産山村 教育委員会

2日目の訪問先の産山小・中学校は、平成21年度文部科学省よりコミュニティ・スクールの指定を受けた後、全教室に電子黒板の配置、ICT活用、西日本で初の土曜授業を開始、保小中一貫教育(5・2・2制)を展開するなど、先進的な教育活動をしている学校です。特色ある教育課程として、地域人材の活用し体験を重視した「うぶやま学」、1年生から始まる英会話科や中学校の英語を先取りした「ヒゴタイイングリッシュ」、小中教員による複数指導体制の「チャレンジ学習」などが取り入れられています。私たち一行が学校に到着すると、象の銅像が入口に置かれていました。「二宮金次郎でなく、なぜ象なのだろう」という疑問を抱えながら、私は産山村の教育課長、校長先生等の説明を聞きました。特色として、産山小学校と中学校の間には、教員乗り入れ授業などの小中連携システムが機能し、小学校舎と中学校舎が多目的室・図書館を挟んで連結されています。入学式等の行事は合同で行われています。コミュニティ・スクールの仕組みですが、「交流コミュニティ(広げ隊)」「体験コミュニティ(暮らし隊)」「文化・安全コミュニティ(伝え隊)」「学習支援コミュニティ(学び隊)」の4種類の分野に分かれ、学校にコーディネーターが席を置いて、地域と学校を結んだ連絡が良く取りまとめているようでした。また、昭和63年度より、タイと交流(通称ヒゴタイ交流)が行われており、国際理解に基づいた活動を続けています。産山村の先生方から聞いて心に残ったことは、「産山でいろんな体験をさせてもらったので、そのお返しをしたい」という成長した子どもたちの声でした。



(研修風景)